

2014 世界マスターズパワー (チェコ・ピルセン) 奮戦記 平成 26 年 9 月 21-27 日 報告、写真：日本選手団 団長 山口 真人

思い起こせば初夏の白馬で行われた 5 月の全日本マスターズパワー。そこで出場権を獲得した良い言い方をすれば「少数精鋭」本音は「ちょっと寂しい」たった 7 名の選手団が関東と関西で分かれて寄港地のドバイで結集。

関西組は座席が空いていたらしく元気そのものだったが関東組は羽田から飛び立ったものの全席満員で割とヘトヘト。

そこからさらにチェコまでは少々「長いな」というのが本音。

お昼過ぎのプラハに降り立って、すぐさま迎えの車に分乗しピルセンまでは 1 時間あまり。

筆者である私は以前参加した世界マスターズパワーから 7 年ぶりに。

その時はオストラバという工業都市。

「旧社会主義国」だった退廃的な印象がこびり付いていたが今回のピルセンまでの車窓から目に映る山肌や街並みはまるで「違う国か？」と見まごうばかり。

日本の方々がきっと想像するヨーロッパの教会を中心に放射線に街が形成されている代表的な周辺都市のそれだった。

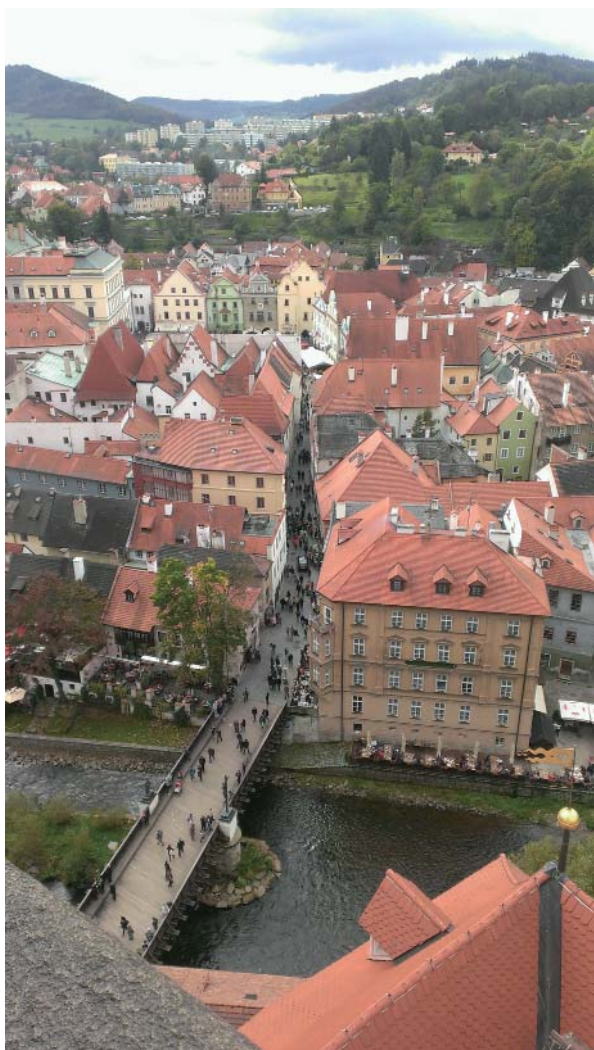
建物の屋根も日本的に言うならば「朱色」がほとんどで木々の緑とマッチして美しい。

綺麗に整備された高速道路から時折見える米国資本の日本でも馴染み深いファストフードの看板やお店など。

おおよそ「渋滞」という単語はこの国には無いのか？と思えるほど快適。

もしかして「7 年」という年月はこの国にとって日本の何倍も峻烈だったのかも。

今や立派にユーロの一翼を担うのだから。



美しいヨーロッパの町並み

チェコはともかくパワーリフティングが盛ん。

「またチェコ？」というのが参加人数が少なくなった事の要因である事も否めないようだが大会会場や運営に関しては何も文句が付けられないものだった。

特にヨーロッパの選手たちはしょっちゅうピルセンで世界大会や欧州大会を開催しているからかホームグラウンド的な顔なじみ感も。

ともあれまず手続きを、と最初に会場のホテルへ。

そこでなんと嬉しい誤算が。

当初は日本選手団は「別ホテル」との案内だったが、希望していた会場であるホテルに宿泊になっていた。これは幸先よし。

すぐさま割り振りの部屋に大きな荷物をえっちらおっちら運び込み、ともかく疲れを取りましょう。

しばらくして全員が果物やお菓子、ミネラルウォーターなどを調達に。

有り難い事にすぐ歩ける所にスーパーマーケットが。

ここでも品揃えや品質などかつて見た「旧社会主義」のそれとは違い申し分ない。

私は何かあれば、と日本から食材も持ち込んだが全く必要ない。

外へ出たお隣には簡易的な中華屋さんも。

しかしホテルも周りはとても静かだ。

その夜にテクニカルミーティング。

しかし随分とまだ未着の国々が多い。

どうやら審判の数の問題もあってか日程も余裕のスケジュール。

1日にほぼ2セッションのみ。

結果的にそのスケジュールは時間の変更もなく守られていく。

大会1日目 女子 M3 63kg 林久子

翌日、どんよりとした曇り空。

聞けば今の季節のこの界限はほとんどそうなのだから。

ホテルの朝食はバイキング形式でどれもが美味しい。

日本選手団のトップバッター、林久子選手。

さすがの世界チャンプもちょっと緊張してるかな。

そう言えば私が団長を拝命し早々にお電話頂いた時も前日にドバイで再会した時もとにかくスクワットの話ばかり。

ご自分でもラップを巻けるようになり微妙な調整も出来たんだと高らかだ。

昨年の世界マスターズパワーであわや失格の憂き目まで追い込まれた世界チャンプがその教訓を圧倒的な練習量で払しょくさせる、とのスローガンも熱い。

熱いのを通り越して最早、暑苦しい？

メインセコンドに濱田。サブに谷口といわゆる関西組の団結感で形成。



デッドリフトで世界記録達成、林選手

アップから気合も入っている。

調子も良さそう…に見えた。

試合が始まる。

スクワット1本目。

なんでもない重さ、のはず。

スタートコールを待つ。

あっ、膝が緩い。

しゃがんだがそもそも高い。

立ったがフィニッシュで膝の緩みからか後ろに踏み出してしまふ。

どうした？

2本目の前に「練習、いっぱいしたんちゃうの？」と少し気合を入れる。

2本目はクリア。

3本目は同じ病気？

アップ場に引き上げて来た林さん。

悔しい悔しい。

その後、ベンチで立て直しデッドはなんと世界記録を樹立。

当然の定位置の表彰台の Teppen に。

試合が終わったすぐにその感傷に浸るよりもスクワットの病気？を悔やむ。

その後もずっとその話ばかり。

終わって件の中華で再びメンバー全員とパワー談義。

暑苦しい御仁だ。

でもそれが林久子。

世界チャンピオン、おめでとう！



林選手、M3 ベストリフター3位に。

2日目 男子 M4 74kg 大澤充

意外だったがこの歴戦の猛者も欧州遠征は初。

北米以外はごった煮のようなアジアを転戦しているので欧州のエスプリはこの御仁には快適なのだろう。

毎朝お散歩を欠かさず淡々と過ごす相変わらずのマイペース。



それが強さの秘密なのか。

アップもペースが乱れる事はない。

メインセコンドを山口。サブに辻見。

ラップは「とにかくキツク」がご所望だ。

ところがスクワットの1本目を落とす。

フィニッシュで後ろに踏み出た。

「林さんのがうつった？」

少しからかってみた。

「どうしたのかな？」とひたすら独り言を繰り返す。

初めて少しだけ狼狽する大澤を見た。

この御仁も人だったんだな。

それで目が覚めたのか後は何の問題もない。

当然の如く約束の地、表彰台の Teppen 。

3日目 女子 M2 47kg 滝沢嘉恵

勝手知ったるメンバーの中で初顔。

随分と緊張されていた。

周りも何とか解そうとしていたが。

そもそもフルマラソンやトライアスロンに興じ国際試合自体は経験しているのだとか。

他の割と自分本位なパワーリフターと明らかに違う「とても良い方」なのだ。

少し可愛そうにも思ってしまうほど。

正直、メインセコンドを担当する私も「こりゃ、大丈夫かな？」しかし。

アップもさることながら試合が始まると集中力が漲る。

ちゃんとセコンドの指示も聞こえ、ちゃんとその通り実行。

スクワットも深くしゃがめ、ベンチはなんと、種目別で金メダル。

デッドの1本目は練習で矯正した背中への屈曲と肩のかぶりなど微塵も見せず素晴らしいフォームで難なく成功。

これで総合銀メダルは確定。

テッペンまでは…ちょっと水が空いちゃったかな。

でも自己ベストを、と2本目、3本目。

結果は…使い切ったんでしょう。

終わって盛んに悔しがっていたけど生涯ベストを初の国際試合で叩き出す。

その後も滝沢さんは細目に動いて選手団を支えてくれました。

楽しんでくれてたのかな？

だとしたら嬉しく思う。

完全に仲間、になってくれましたね。

その夜は初めて街に繰り出し地元料理に舌鼓。終わってホッとされていた。



世界初出場、滝沢選手



当然の如く、約束の地へ、大沢選手

4日目 全員お休み

各々が自由に過ごす。皆は少し歩く別のスーパーマーケットへ。
明日が試合の私も意外と減量が進んでいるのでしっかりと食べる。
お昼は明日のメインセコンドの濱田選手と街中へ繰り出し小粋なカフェでアイスクリームとケーキを流し込む。
夜もホテルのレストランでパスタを。
ひとつおりの準備はした。

5日目 男子 M2 74kg 谷口晃一

午前のセッション。
体重が気になって街中に繰り出してもあまり食べれない。
しかしそれはお話を聞けば服を着たまま体重計に乗った重量。
「どんだけパワーをやってるの？」
当然、突っ込まれる。
とにかくこの御仁はよく寝る。
私は何度か一緒にいるが誰よりも。
羨ましいくらい。
大澤親分から「病気じゃないの？」と心配される。
さて試合。
メインセコンドに辻見。サブに林。
スクワット1本目を落としたがその後は問題なく。
メインの辻見の好リードもあってベンチは種目別2位。
トータルは4位に食い込んだ。
私の試合の前のセッションだったので正直、あまり真剣に視てあげられなかったが、さらに正直、この御仁の試合は全く興味なく代わりに御仁のキャラクターは憎めなくて大好きだ。あまり寝すぎると病気になるぞ！

5日目 男子 M2 83kg 山口真人

恥ずかしい事に結局ウエイトは激減。
ちゃんと食べちゃいたんだけどな。面目ない。
このクラスは今まで表彰台の常連だった立派なお髭のドイツのカイザーこと Rolf が腰をやってしまい、医者から「引退しろ！」と脅されたとかで直前でエントリーを取消。
代わりに地元チェコの期待を一身に集める Sekot が 93kg から鞍替えしてきた。
闘いは試合前から。
ウエイトインで Sekot がロットナンバー1番で早々に済ましている。
山口は最後。



きっと偶然だろうしルール違反では無い。

よくある事だ。

しかし、アップ場で隣に陣取った彼と顔を合わせたのが気の毒なほど目が窪んでいる。(もともとそういう顔かも) 10kg 減量はさぞキツからうて。

アップでも重そう。しめしめ。

顔なじみの常連 Rasmussen と健闘を誓い合う。

減量もあったので安全に第一試技の申告を落とす。

ところがほとんど全員がそうしていた。

よしよしボクがコントロールしているぞ。

試合が始まる。

何でも無い重さ…のはず。

あれ、ラックが高い？



世界選手権優勝、団長の山口選手

最早、担ぎ出してるし、こんななんでもないはず。

と思ったがシャフトが動かない(普通、ラックのアゴ上で回ったり動くよね?) ぐちゃぐちゃ言い訳したくないので担ぐ。重い重い。

カラダが倒れそうに。

ココロが挫けそうに。

自分でラックに掛け直し再びトライ。

制限時間ギリギリでスクワットコールを貰う。

立てた…

聞こえた万雷の拍手。

演技賞もんだろ? こんなの。

こういうのが皆、お好きなのね。

恥ずかしい…

結果的に相当なハードワーク。乳酸が Max。

2 本日も少し待ち時間を読み違い脚が痺れる失態。

プラットフォームに上る僅かな段差にさえつまずく。

結果は立ちが後ろに。情けない。何やてんだろ。こんなモンじゃないだろ。

そんな自分にオサラバする為に少し離れたところで壁に向かって振り絞って大声を出す。

皆が振り返る。皆が驚き、皆がボクを見る。

3 本目を挙げた事で俄然、優位に。(実際はこれで他の選手は2位狙いになったのだけど)

その後はベンチはベンチのお好きな皆さんでどうぞお楽しみください。

自分が出来る重量をひたすら安全運転の巡航速度で刻み積み上げる。

デッドのアップの時に顔馴染みの香港のボク爺さんとイップ女史が現れる。

もう勝ったみたいに。記念撮影をするんだという。鬱陶しいなあと思ったけど。まあいいか。

その後、デッドもそう。安全運転。巡航速度。

ボクさん、試技の前に興奮して何だかわかんない広東語を捲し立てる。気合を入れているの？

第2試技が終わってその時点で2位の Rasmussen が私に近づいて来たので「次はいくつ？」と聞いたら「280kg」（出来るはずもないの意）と笑いながら握手してきたので、その時に初めて「ああ勝ったんだな」と実感した。「2位を狙うし、それで満足している」と。

最後くらいはすぐその日本記録とかアジア記録とかもっと重量増加を格好良く狙ってやろうか、と魔が差しましたが、かつて吉田寿子さんから耳にタコなくらい聞かされた教訓。

「国際大会は記録よりも順位」

今だから言えるけど予感はなんとなくしていた。

全く根拠なんてなかった未来予想図。

でも実際には9月初旬に全日本マスターズクラシックに出るまでギア練習は皆無。

さすがにそこから正味2週間で仕上げるのはそもそもご法度。

ナメてました。重かったし、ボクまだまだです。

しかし勝てる気だけはしてたんだな。不思議ですね。

表彰式を待つ間、冷え冷えとしたプールにそろーっと浸かった感覚は一生忘れないかな。

今度はクラシックで頂点を目指そうか？

男子 M2 120kg 辻見直樹

その茶目っ気ある明るいキャラクターで選手団のアイドル？的存在。

パワーリフティングが好きなのは誰より負けない。

件の林さんに食い下がられても真面目に丁寧にパワーの事をちゃんとお答え。

体重も減量の問題がないからかチェコのお肉料理がバキュームカーのような勢いでジミーちゃんの口の中に吸い込まれていくさまは圧巻。

そんなジミーちゃん、きっと師匠のア○マさんの鼻を少しでもあかすことが何よりのモチベーション。

プラットフォームにイメージカラーの真紅が映える。

スクワットも他の日本選手が誰も成し得なかった本とも成功。

無駄のない理想的なルーティンでしっかりとしゃがむ。

しかし、このクラスになると欧米のどデカイ輩たちが闊歩。

特にスクワット、デッドでは300kgを超えるのが普通という剛の者も。

ベンチで種目別3位に食い込んだが総合では5位。

ジミーちゃん、それでも日本記録をトータルでも打ち立てた。

男子 M1 74kg 濱田展行

チカラがある事は誰もが認める。

が、しかし「釣果」を得られない。

以前はデッドを1本引けば、という釣り上げたすぐその獲物を網ですくえなかった。

パワーで出会ったお友達は一生の宝



去年は団長を務めた心労もあったのだろう、スクワットでいわゆる三振。
今年に賭ける思いは並々ではない。
メインセコンドの私とも打合せ充分。作戦充分。体調もすこぶる良い。
あとは実行あるのみ。
ライバルと目されたイギリスの Phillip が腰を痛めたという情報も。
セコンドについている彼より数倍デカイ彼女さんが入念に腰をマッサージ。
しかしこれも日本流でいうところのいわゆる三味線かも。
申告重量も濱田と全く同じ。
アップを重ね「ちょっと重そうだな」と思ったが。
試合が始まる。
ロットナンバーが先の Phillip が 1 本目を落とす。
チャンスだ！
ところが濱田に思わぬ落とし穴が。
テクニカルコントローラーがプラットフォームに行く事を許さない。
ブラジルの日系人女性のナカダさんが盛んに「ベルト、ベルト」と。
「ベルトはちゃんとしているぞ！」言い返している場合でない。
それはリストラップの意だった。
ルールで明記されている「しっかりと準備」つまりリストラップがちゃんと巻かれていない事で侵入を許さ
なかった。結果、余計な時間を使ってしまい無念のタイムオーバー。
もったいない。
それでペースが崩れたのなら、それまでの人だ。
そうではないはず。
しかし…
2 本目は潰れ、最後に賭けた 3 本目も立てはしたが 3 審判とも高さで赤判定。
落日はあっけないものだ。
その後、ベンチで辛うじて種目別 2 位になったのだが。
その後、憎たらしいくらい Phillip は先を行ってしまう。
思えば前日に凶らずも私が自身で感じた「自分がコントロールしている」感覚を如何なく発揮させていた。
アップ場でもプラットフォームでも、そいつが出てくると、とたんに雰囲気が変わる。



試合を終えて、ホッとする日本選手団

会場のヒートアップ、補助する者たちの注ぐ視線、ジャッジへの注目度。賞賛の声。

何もが凌駕していた。そんな存在だった。

完敗どころか勝負にならなかった…

セコンドとしても大いに責任を感じている。

濱田選手には来る世界パワーで目にモノ言わせて欲しいと心から願う。

闘い終えて

しかし、これでもって日本選手の試合は全て終了。

終わってみれば本当にあっけなかったが参加人数の割に少し長かったな、というのが印象かな。

タイムスケジュールもほとんど正確で表彰セレモニーもその後すぐに催され感動的なものだった。

英語が全く喋れない審判も多かったりウエイトインの時にロットナンバーのみにこだわって第2セッションの選手を先に入れたりするなど（これはガストンに抗議して止めさせた）

些細な不満はあったけど、概ね素晴らしい運営で団長としても選手としてもチェコの協会に感謝するばかり。

これが経験の差なのか、よく吉田進さんが口にしていた「見せる（魅せる）パワー」を体現していた。

番外編 世界遺産のチェスキークロムロフ観光

日本選手が誰も出場しない最終日。

ベンツのリムジンをチャーターして全員でお出掛け。

絶対に寝坊すると思われていた谷口さんもなんとか起き。

ちなみにその際も林さんは車中でスクワットの話。

私が僭越にもお伝えした事をきっちりメモをお取りになって帰国したら試すのだそう。

道路の脇の街路樹のほとんどがリンゴの樹で赤々とたわわな実を誇っている。

延々と広がる田園風景。

時々現れるコンパクトな街並み。

何もかもが美しい。

2時間ほどのドライブで目的地に到着。

噂に聞こえた「世界で一番美しい街」は嘘ではなかった。

年寄りばかりなのでまずはトイレを兼ねてカフェで一服。

温かいコーヒーにケーキでも。

ところが。

そこにやってきたウエイトレスさん。

普通に「ピルスナー？スタウト？」

ちょっと待ってよ。

朝の11時なのに周りのお客さん皆さんご陽気にやっちゃってます。

反射的に「吉田寿子さんが居るんでは？」と探してしまったけど。

さすがチェコ。さすがビール消費量、世界一！

「すみません。コーヒーとケーキで…」

二度見されましたけど。

そう言えば週末の土曜日です。

広場は何だかお祭りで盛り上がってます。

その伝統のないでたちからまるで中世に舞い込んだみたい。

お城に行く道すがらゴミがひとつも落ちてません。

本当に綺麗です。

塔に登り、お城を眺め、庭園を歩き。

帰りに庭園の脇にある田園の農家風のレストランで野生の「ヘラ鹿」のソーセージに舌鼓。

最後にシナゴークを眺め、歌に聞こえしモルダウ川のほとりで皆で記念撮影。

ドライバーを務めた tomas さんは本来の運転手だけでなく、なんとか我々を楽しませようと一所懸命に頑張ってくれました。

何もが美しかった街。

ホテルに着いた時、湧いて出た皆の拍手。

「ありがとう、団長」と言われた時、ちょっとウルッ。

今日のこの日が良い思い出になってくれたら嬉しく思います。

バンケット

さして感動もない。

あっさりしたもの。

ただビールはなんとフリー。

女子 M3 で林さんがフォーミュラー 3 位

男子 M4 で大澤さんがフォーミュラー 3 位

少しガストンと話す。

中締めのものがあるって、それでは日本選手は明日の朝早いからと中座しようかと。

ガストンがひとりでカラオケやっていたのが滑稽。

やがてダンスホールと化し、なぜだか以前からウマが合ったカナダの Carol と少し踊る。

その後、何と我らがジミーちゃんがベストパフォーマーに輝いたらしい。

腹芸がウケたんだとか。

やるなあ。

さらばチェコ

昼過ぎのフライトなのでもったいないからと早朝にピルセンのホテルを発つ。

魅惑の街、プラハ。

以前、私が魅了され心を鷲掴みされたプラハは変わらず。

時計台からカレル橋からプラハ城。

さすがに林さんも興奮気味。

と思ったらみやげ物やの店先で聞こえて来たジミーちゃん相手にまたもやスクワット談義。

懲りない御仁。

そんなパワーが大好きな人たち。

皆さん、これからもお元気で。

さあ、帰りましょう。

そう「我が祖国」に。

(時折、敬称略)



World Masters Championships, Czech Republic, Pilsen, 21-27.09.2014
IPFホームページより

男子の部

Masters 1

- 59 kg

1. Rimpi Pentti 1967 FIN 58,68 140,0 155,0 160,0 105,0 115,0 ~~122,5~~ 165,0 175,0 182,5 457,5

- 66 kg

1. Noppers Lewis 1970 CAN 65,70 220,0 230,0 ~~240,0~~ ~~150,0~~ 150,0 ~~157,5~~ 220,0 235,0 X 615,0
2. Ruso Karel 1965 CZE 65,83 232,5 250,0 ~~257,5~~ 95,0 100,0 ~~105,0~~ 207,5 220,0 232,5 582,5
3. Telegin Jonas 1965 SWE 65,61 195,0 207,5 215,0 120,0 127,5 132,5 207,5 220,0 ~~232,5~~ 567,5
4. Schoennerstedt Frank 1966 GER 65,02 175,0 190,0 ~~195,0~~ 92,5 ~~97,5~~ ~~105,0~~ 180,0 195,0 210,0 492,5
5. Stadlhofer Ewald 1970 AUT 64,78 150,0 160,0 170,0 90,0 97,5 102,5 170,0 180,0 190,0 462,5

- 74 kg

1. Richard Phillip 1971 GBR 73,62 ~~275,0~~ 282,5 290,0 210,0 ~~217,5~~ ~~225,0~~ 235,0 245,0 ~~255,0~~ 745,0
2. Siltala Sami 1974 FIN 73,17 230,0 240,0 245,0 160,0 167,5 ~~172,5~~ ~~240,0~~ 245,0 252,5 665,0
3. Muir Sean 1970 AUS 73,60 ~~235,0~~ ~~235,0~~ 235,0 150,0 155,0 ~~155,0~~ 240,0 257,5 265,0 650,0
4. McGurk Bernard 1968 GBR 73,35 220,0 ~~235,0~~ ~~240,0~~ 145,0 ~~147,5~~ 147,5 250,0 262,5 275,0 642,5
5. Halbot Vincent 1969 FRA 73,50 220,0 ~~235,0~~ ~~237,5~~ 180,0 ~~187,5~~ 187,5 215,0 ~~220,0~~ 220,0 627,5
6. Macri Michael 1969 USA 73,91 205,0 215,0 227,5 115,0 ~~122,5~~ 122,5 205,0 ~~227,5~~ ~~227,5~~ 555,0
- Casenove Vincent 1972 FRA 72,26 215,0 225,0 232,5 147,5 ~~152,5~~ ~~152,5~~ ~~235,0~~ ~~235,0~~ ~~235,0~~ Out
- Hamada Nobuyuki 1969 JPN 73,75 ~~275,0~~ ~~275,0~~ ~~275,0~~ 210,0 ~~220,0~~ ~~220,0~~ 230,0 240,0 ~~250,0~~ Out

- 83 kg

1. Sliz Pavol 1973 SVK 82,29 280,0 ~~290,0~~ ~~290,0~~ 165,0 170,0 172,5 260,0 270,0 280,0 732,5
2. Kotzot Bernhard 1968 GER 82,56 270,0 ~~282,5~~ ~~282,5~~ ~~175,0~~ 175,0 ~~215,0~~ 240,0 250,0 ~~260,0~~ 695,0
3. Joensuu Leif 1970 SWE 82,36 245,0 255,0 262,5 180,0 ~~185,0~~ 185,0 220,0 240,0 ~~255,0~~ 687,5
4. Bertin Fabrice 1967 FRA 82,38 225,0 235,0 240,0 ~~195,0~~ 195,0 ~~200,0~~ 205,0 215,0 ~~225,0~~ 650,0
5. Rocca Cyril 1974 FRA 82,69 230,0 ~~245,0~~ ~~247,5~~ 130,0 137,5 142,5 240,0 ~~252,5~~ ~~252,5~~ 612,5
- Tapia Luis 1968 PUR 81,96 ~~325,0~~ ~~325,0~~ ~~325,0~~ 182,5 185,0 195,0 247,5 252,5 ~~270,0~~ Out
- Vikla Tomi 1970 FIN 82,87 ~~240,0~~ ~~240,0~~ ~~240,0~~ 220,0 X X 230,0 240,0 ~~245,0~~ Out

- 93 kg

1. Gregersen Geir 1970 NOR 92,59 300,0 ~~310,0~~ ~~310,0~~ ~~205,0~~ 205,0 ~~210,0~~ 250,0 260,0 265,0 770,0
2. Grohoski Pete 1970 USA 92,92 250,0 262,5 267,5 250,0 ~~257,5~~ ~~257,5~~ 222,5 235,0 242,5 760,0
3. Hansen Kim Dahl 1971 DEN 92,54 275,0 ~~287,5~~ ~~287,5~~ 170,0 ~~177,5~~ 177,5 270,0 287,5 ~~307,5~~ 740,0
4. Hakkarainen Petteri 1967 FIN 92,42 235,0 250,0 255,0 ~~190,0~~ ~~190,0~~ 190,0 250,0 260,0 ~~265,0~~ 705,0
5. Pires Daniel 1971 FRA 89,77 240,0 ~~250,0~~ ~~255,0~~ ~~210,0~~ 215,0 ~~217,5~~ 220,0 232,5 ~~240,0~~ 687,5
6. Bataa Battsengel 1970 MGL 92,57 240,0 242,5 X 220,0 230,0 ~~242,5~~ 200,0 215,0 ~~227,5~~ 687,5
7. Tauer Tomas 1972 CZE 91,77 ~~220,0~~ 240,0 ~~255,0~~ ~~180,0~~ 190,0 ~~200,0~~ ~~220,0~~ 240,0 X 670,0
8. Meurer Olaf 1965 GER 90,35 200,0 X X 187,5 ~~192,5~~ 192,5 220,0 232,5 240,0 632,5
- Gregus Milan 1968 CZE 92,65 ~~275,0~~ 280,0 ~~290,0~~ ~~210,0~~ ~~210,0~~ ~~210,0~~ 245,0 252,5 X Out
- Schnurr Mario 1966 GER 92,72 ~~305,0~~ ~~310,0~~ ~~312,5~~ 200,0 ~~212,5~~ ~~217,5~~ 285,0 300,0 ~~317,5~~ Out

- 105 kg

1. Bak Sune 1974 DEN 104,61 275,0 295,0 307,5 242,5 ~~252,5~~ 252,5 285,0 297,5 ~~312,5~~ 857,5
2. Kennedy Brad 1973 CAN 102,56 295,0 305,0 310,0 250,0 ~~260,0~~ 260,0 255,0 ~~265,0~~ ~~265,0~~ 825,0
3. Persson Hakan 1967 SWE 104,24 290,0 ~~305,0~~ ~~305,0~~ 205,0 210,0 ~~212,5~~ 295,0 310,0 ~~312,5~~ 825,0
4. Srsen Jaromir 1974 CZE 97,13 295,0 310,0 315,0 222,5 ~~232,5~~ ~~232,5~~ 270,0 285,0 ~~287,5~~ 822,5
5. Kalter Michael 1972 NED 104,62 290,0 305,0 ~~312,5~~ 185,0 192,5 ~~195,0~~ 295,0 ~~307,5~~ 307,5 805,0
6. Heinrich Reiner 1971 GER 103,89 210,0 250,0 290,0 190,0 ~~205,0~~ ~~205,0~~ 295,0 ~~310,0~~ ~~310,0~~ 775,0
7. Wynn Mark 1966 USA 104,27 ~~247,5~~ 247,5 ~~255,0~~ 170,0 177,5 187,5 255,0 267,5 270,0 705,0
8. Krockover Alan 1968 USA 102,48 240,0 250,0 265,0 165,0 177,5 185,0 240,0 252,5 ~~260,0~~ 702,5
- Rada Karel 1973 CZE 103,85 ~~300,0~~ ~~300,0~~ ~~310,0~~ 180,0 185,0 190,0 260,0 280,0 ~~295,0~~ Out

- 120 kg

1. Gholson Andre 1971 USA 119,39 352,5 355,0 357,5 262,5 ~~267,5~~ 267,5 275,0 295,0 ~~302,5~~ 920,0
2. Cazacu Sorin 1973 ROU 118,84 362,5 370,0 375,0 ~~270,0~~ ~~270,0~~ 270,0 262,5 272,5 ~~275,0~~ 917,5
3. Leberwurst Franz 1969 AUT 118,47 350,0 360,0 ~~370,0~~ 215,0 225,0 230,0 300,0 310,0 ~~315,0~~ 900,0
4. Pinc Jan 1973 CZE 119,14 ~~315,0~~ 325,0 340,0 255,0 265,0 ~~272,5~~ 270,0 ~~290,0~~ ~~297,5~~ 875,0
5. Sjol Per Ove 1971 NOR 118,40 310,0 330,0 ~~340,0~~ 215,0 225,0 ~~235,0~~ 290,0 302,5 ~~317,5~~ 857,5
6. Arndt Stephan 1973 GER 114,02 295,0 312,5 325,0 207,5 217,5 225,0 255,0 270,0 ~~280,0~~ 820,0
7. Mattila Kaj 1970 FIN 117,55 270,0 290,0 300,0 210,0 227,5 ~~240,0~~ 240,0 ~~250,0~~ ~~250,0~~ 767,5
8. Wamsteeker Wim 1969 NED 119,17 280,0 290,0 ~~295,0~~ 195,0 200,0 202,5 245,0 252,5 ~~257,5~~ 745,0
9. Mullener Robert 1974 USA 119,27 225,0 ~~235,0~~ ~~235,0~~ 162,5 167,5 175,0 215,0 230,0 ~~237,5~~ 630,0

120+ kg

1. Soukal Jaroslav 1972 CZE 160,76 325,0 350,0 367,5 ~~305,0~~ 310,0 ~~325,0 w1~~ 265,0 285,0 ~~307,5~~ 977,5
2. Giseth Geir Arne 1966 NOR 136,98 325,0 ~~340,0~~ 340,0 232,5 240,0 ~~245,0~~ 290,0 302,5 307,5 887,5
3. Sorig Morten 1969 DEN 141,36 347,5 ~~365,0~~ ~~365,0~~ ~~265,0~~ 265,0 ~~277,5~~ 257,5 270,0 ~~280,0~~ 882,5
4. Haasler Kay 1971 GER 140,88 290,0 310,0 325,0 ~~230,0~~ 230,0 ~~237,5~~ 277,5 292,5 307,5 862,5
5. Alexopoulos Costa 1974 NZL 137,07 305,0 315,0 ~~320,0~~ 215,0 227,5 235,0 280,0 290,0 ~~305,0~~ 840,0
6. Patru Valentin 1968 BEL 132,13 310,0 ~~325,0~~ 325,0 185,0 ~~200,0~~ ~~200,0~~ 275,0 290,0 ~~302,5~~ 800,0
- Hocquard Richard 1968 FRA 125,82 ~~300,0~~ ~~300,0~~ ~~300,0~~ 180,0 190,0 200,0 250,0 267,5 ~~275,0~~ Out

Team (points)

1. Czechia 39 [12+9+7+7+4] 2428,02 w.pts.
2. U.S.America 33 [12+9+5+4+3] 2252,57 w.pts.
3. Germany 33 [9+7+7+5+5] 2280,86 w.pts.

Best Lifters of Masters 1

PL.	Lifter	Team	B.Weight	Total
1.	Richard Phillip	Great Britain	73.62	745,0
2.	Soukal Jaroslav	Czechia	160.76	977,5
3.	Gholson Andre	U.S.America	119.39	920,0

2. Sarik Vojtech	1943	CZE	106,12	150,0	170,0	175,0	100,0	110,0	120,0	160,0	180,0	X	450,0
120+ kg													
1. Sandelin Raimo	1940	FIN	120,50	100,0	X	X	95,0	127,5	135,0	130,0	175,0	180,0	370,0

Team (points)

1. U.S.America	39	[12+12+8+7]	1127,06 w.pts.
2. Germany	38	[12+9+9+8]	1183,79 w.pts.
3. Finland	21	[12+9]	486,96 w.pts.
4. Japan	12	[12]	349,36 w.pts.

Best Lifters of Masters 4

PL.	Lifter	Team	B.Weight	Total
1.	Schoetz Rainer	Germany	81.65	555,0
2.	Zhuravlev Mikhail	Russia	79.73	537,5
3.	Osawa Mitsuru	Japan	73.32	482,5

女子の部

Masters 1

- 47 kg

1. Feraud Nathalie	1967	FRA	46,56	122,5	127,5	130,0	80,0	85,0	87,5	132,5	140,0	145,0	355,0
2. Schwengl-Forsthuber Ilka	1965	AUT	46,59	115,0	125,0	125,0	77,5	82,5	87,5	130,0	140,0	147,5	347,5
3. Barry Elisabeth	1973	RSA	46,49	100,0	107,5	112,5	47,5	50,0	50,0	120,0	127,5	130,0	287,5

- 52 kg

1. Petroczki Magdolna	1968	HUN	51,43	145,0	155,0	162,5	87,5	92,5	95,0	150,0	160,0	170,0	427,5
2. Gavornikova Monika	1974	SVK	51,74	145,0	155,0	160,0	92,5	97,5	100,0	135,0	145,0	150,0	400,0
3. Cutrona Tammy	1966	USA	51,49	105,0	110,0	110,0	70,0	75,0	77,5	110,0	117,5	122,5	307,5
4. Zabne Dobai Gabriella	1974	HUN	49,33	50,0	55,0	60,0	55,0	60,0	62,5	67,5	77,5	82,5	202,5

- 57 kg

1. Banovska Eva	1971	CZE	55,38	130,0	140,0	140,0	70,0	80,0	80,0	137,5	147,5	155,0	355,0
2. Le Blevenec Nina	1972	FRA	56,30	130,0	130,0	140,0	57,5	62,5	65,0	140,0	147,5	157,5	340,0
3. Barataud Sylvie	1967	FRA	56,25	97,5	102,5	102,5	52,5	57,5	57,5	120,0	125,0	130,0	280,0
— Buxbom Eva	1969	DEN	56,82	160,0	165,0	165,0	90,0	90,0	90,0	170,0	180,0	185,0	Out

- 63 kg

1. Sturm Lara	1968	USA	62,01	165,0	177,5	182,5	95,0	100,0	102,5	150,0	162,5	172,5	455,0
2. Rey Gaudreau Jennifer	1971	USA	62,74	157,5	157,5	172,5	95,0	102,5	105,0	157,5	170,0	180,0	447,5
3. Stavik Anita	1965	NOR	61,63	155,0	165,0	167,5	65,0	70,0	70,0	155,0	162,5	167,5	400,0
4. Johansson Ulrika	1972	SWE	61,66	167,5	167,5	167,5	85,0	85,0	90,0	140,0	145,0	147,5	400,0
5. Dietmayer Petra	1967	GER	61,18	85,0	92,5	97,5	67,5	72,5	77,5	115,0	122,5	127,5	292,5

- 72 kg

1. Bukina Elena	1971	RUS	69,96	165,0	175,0	180,0	115,0	125,0	130,0	170,0	182,5	190,0	492,5
2. Hampel Sybille	1967	GER	69,73	152,5	162,5	167,5	72,5	77,5	82,5	145,0	152,5	160,0	392,5
3. Ilves Virve	1970	FIN	71,66	145,0	155,0	160,0	70,0	77,5	77,5	160,0	150,0	170,0	375,0

- 84 kg

1. Sjardijn Carmen	1969	NED	74,13	170,0	180,0	187,5	112,5	115,0	120,0	155,0	165,0	170,0	465,0
2. Brand Michelle	1973	GBR	82,47	152,5	160,0	165,0	100,0	107,5	110,0	140,0	147,5	152,5	427,5
3. Bohlen Sarah	1969	USA	78,72	147,5	152,5	160,0	85,0	85,0	90,0	150,0	160,0	182,5	405,0
— Strik Ielja	1973	NED	83,65	240,0	255,5	255,5	172,5	172,5	172,5	200,0	210,0	220,0	Out

84+ kg

1. Nokua Katarina	1973	FIN	105,73	200,0	X	X	140,0	167,5	X	190,0	202,5	222,5	530,0
2. McRae MiMi	1970	CAN	104,68	160,0	172,5	177,5	85,0	92,5	92,5	160,0	170,0	185,0	427,5
3. Denton Erin	1973	CAN	94,08	150,0	165,0	165,0	112,5	122,5	127,5	137,5	147,5	147,5	420,0

Team (points)

1. U.S.America	37	[12+9+8+8]	1736,93 w.pts.
2. France	29	[12+9+8]	1207,36 w.pts.
3. Finland	20	[12+8]	801,97 w.pts.

Best Lifters of Masters 1

PL.	Lifter	Team	B.Weight	Total
1.	Petroczki Magdolna	Hungary	51.43	427,5
2.	Gavornikova Monika	Slovakia	51.74	400,0
3.	Sturm Lara	U.S.America	62.01	455,0

Masters 2

- 47 kg

1. Ryman Price Kimberly	1962	USA	46,16	97,5	105,0	110,0	52,5	57,5	57,5	122,5	132,5	140,0	297,5
2. Takizawa Yoshie	1957	JPN	45,10	90,0	95,0	100,0	60,0	62,5	65,0	100,0	107,5	107,5	260,0

- 52 kg

1. Hunter Jennifer	1958	GBR	51,78	95,0	100,0	100,0	70,0	75,0	80,0	140,0	147,5	152,5 c2	327,5
2. Jallais Marie Therese	1957	FRA	49,82	70,0	80,0	85,0	52,5	57,5	57,5	95,0	100,0	105,0	237,5
3. Roche Martine	1956	FRA	51,87	80,0	80,0	92,5	25,0	X	X	70,0	85,0	95,0	190,0

- 57 kg

1. Kemper Antoinette	1964	USA	55,53	132,5	142,5	147,5	75,0	77,5	X	130,0	140,0	145,0	362,5
2. Allen Helen	1961	AUS	56,45	107,5	115,0	120,0	57,5	60,0	60,0	152,5	165,0	170,0	337,5

- 63 kg

1. Liimatainen Riitta	1963	SWE	61,60	181,0 w2	190,5 w2	200,0	100,0	100,0	107,5	162,5	172,5 c2	180,5 w2	478,5/w2
2. Calves Francoise	1956	FRA	60,21	125,0	125,0	125,0	62,5	65,0	67,5	127,5	132,5	135,0	327,5

3.	Blondan Daisy	1959	FRA	61,64	117,5	117,5	122,5	75,0	80,0	80,0	130,0	135,0	137,5	327,5
4.	Sobotka Monica	1958	USA	58,01	100,0	105,0	110,0	67,5	72,5	75,0	140,0	147,5	150,0	325,0
5.	Daniel Caryn	1963	USA	62,16	112,5	122,5	125,0	60,0	65,0	70,0	117,5	127,5	132,5	320,0
6.	Ip Wing-Yuk	1961	HKG	59,71	100,0	110,0	X	70,0	70,0	77,5	90,0	110,0	135,0	287,5
- 72 kg														
1.	Marts Donna	1960	USA	70,02	152,5	157,5	157,5	100,0	102,5	107,5	162,5	170,0	177,5	437,5
2.	Staveim Gro-Berit	1964	NOR	71,13	150,0	155,0	160,0	72,5	77,5	80,0	147,5	147,5	155,0	385,0
- 84 kg														
1.	Styrlund Laura	1964	USA	82,08	155,0	165,0	172,5	110,0	117,5	125,0	170,0	182,5	190,0	480,0
2.	Blasbery Jacqueline	1963	GBR	83,48	155,0	155,0	170,0	105,0	115,0	120,0	170,0	182,5	190,0	480,0
3.	Steidle Susanne	1964	GER	76,07	157,5	157,5	165,0	87,5	95,0	97,5	140,0	150,0	160,0	412,5
84+ kg														
1.	Maton Jean	1963	GBR	85,18	160,0	160,0	170,0	105,0	112,5	120,0	170,0	180,0	185,0	462,5

Team (points)

1.	U.S.America	55	[12+12+12+12+7]	2074,91 w.pts.
2.	France	34	[9+9+8+8]	1265,00 w.pts.
3.	Great Britain	33	[12+12+9]	1248,63 w.pts.
4.	Sweden	12	[12]	522,76 w.pts.
5.	Australia	9	[9]	394,62 w.pts.
6.	Norway	9	[9]	378,85 w.pts.
7.	Japan	9	[9]	360,02 w.pts.
8.	Germany	8	[8]	388,72 w.pts.
9.	Hong Kong	5	[5]	321,73 w.pts.

Best Lifters of Masters 2

PL.	Lifter	Team	B.Weight	Total
1.	Liimatainen Riitta	Sweden	61.60	478,5
2.	Marts Donna	U.S.America	70.02	437,5
3.	Styrlund Laura	U.S.America	82.08	480,0

Masters 3

- 47 kg														
1.	Muldrock Patricia	1954	NZL	45,27	100,0	107,5	115,5 w3	60,0	65,0	70,0	120,0	130,0 w3	140,0	315,5/w3/
2.	Cornwall Marina	1954	GBR	45,34	72,5	77,5	77,5	45,0	47,5	50,0	110,0	120,0	127,5	245,0
- 52 kg														
1.	Malicot Maryse	1946	FRA	50,82	85,0	90,0	95,0	45,0	47,5	47,5	90,0	97,5	105,0	240,0
2.	Johnson Denise	1947	USA	51,72	45,0	50,0	55,0	32,5	37,5	37,5	75,0	82,5	85,0	172,5
- 57 kg														
1.	Vaulakorpi Irmeli	1954	FIN	55,99	82,5	92,5	102,5	60,0	65,0	67,5	100,0	110,0	117,5	280,0
- 63 kg														
1.	Hayashi Hisako	1951	JPN	60,69	130,0	130,0	140,0	77,5	85,0	95,5	135,0	145,0	150,5 w3	365,5
2.	Brady Carol	1950	CAN	62,19	102,5	110,0	115,0	62,5	67,5	70,0	102,5	110,0	115,0	300,0
3.	Madsen Lise	1953	DEN	61,89	50,0	62,5	65,0	40,0	42,5	42,5	135,0	142,5	150,5	245,0
- 84 kg														
1.	Takacova Hana	1954	CZE	79,49	160,0	181,0 w3	X	130,0	130,0	135,5 w3	145,0	160,0	160,0	461,5
84+ kg														
1.	Hollands Susan	1951	GBR	85,55	165,0	165,0	175,0	77,5	82,5	85,0	147,5	157,5	165,0	425,0

Team (points)

1.	Great Britain	21	[12+9]	713,63 w.pts.
2.	New Zealand	12	[12]	435,71 w.pts.
3.	Czechia	12	[12]	423,78 w.pts.
4.	Japan	12	[12]	403,89 w.pts.
5.	Finland	12	[12]	329,50 w.pts.
6.	France	12	[12]	304,52 w.pts.
7.	Canada	9	[9]	325,36 w.pts.
8.	U.S.America	9	[9]	215,94 w.pts.
9.	Denmark	8	[8]	266,69 w.pts.

Best Lifters of Masters 3

PL.	Lifter	Team	B.Weight	Total
1.	Muldrock Patricia	New Zealand	45.27	315,5
2.	Takacova Hana	Czechia	79.49	461,5
3.	Hayashi Hisako	Japan	60.69	365,5

Masters 4

- 52 kg														
1.	Kumpuniemi Eila	1942	FIN	49,43	77,5	80,0	87,5	47,5	55,0	55,0	100,0	112,5 w4	120,5 w4	263,0

Team (points)

1.	Finland	12	[12]	340,80 w.pts.
----	---------	----	------	---------------

Best Lifters of Masters 4

PL.	Lifter	Team	B.Weight	Total
1.	Kumpuniemi Eila	Finland	49.43	263,0